

令和2年度
印西市民アカデミーだより
第20号

印西の歴史散策4

荒天のため12月1日に延期した第4回目は、小春日和の中、船穂・松崎地区を散策しました。平安中期につくられた辞書「和妙類聚抄」に「船穂郷」の名称が載っているほど歴史のある地域です。船穂コミュニティセンターを出発し、最初に訪問したのは、船穂宗像神社。この神社には、鳥居が建てられていません。鳥居を建てると洪水になるという言い伝えによるものです。

次に訪問したのは、松崎にある多聞院。境内の奥に、毘沙門堂があり、堂内には、仏師賢光の作といわれる木造毘沙門天及び両脇侍立像が安置されています。

続いて訪問したのは、火皇子神社(ひのおうじ)。この神社では、毎年、「十五夜」の行事が行われています。境内には、庚申塔が多数建てられていて、その中に大変珍しい「一石百庚申塔」が1基建てられています。本殿の裏側には、樹齢600年といわれる杉の木



拝殿前の鳥居の土台2基



多聞院の毘沙門堂



樹齢600年の杉の切株



発掘調査中の住居跡

されています。現在、火皇子神社の周りでは、印西市による発掘調査が行われています。運よく調査担当者の方がいらして、発掘の様態を丁寧に説明してくださいました。縄文時代には、大きな集落があったとのこと。目の前には香取の海が広がり、住みやすい土地だったようです。

続いて訪問したのは、コミュニティセンター前戸の里。敷地内には多数の月待塔が建てられており、如意輪観音や子安観音が彫られています。江戸時代から現代(平成)までに建てられたものが整然と並んでいます。

最後に訪問したのは、山下霊苑付近にある石造物群。ここには、江戸時代から建てられた庚申塔や月待塔が数基ずつ分散して建てられています。その中でも、珍しいのは、「二十六夜塔」と「一石百庚申塔」です。市内の月待塔は、ほとんどが十九夜塔や二十三夜塔なので、大変貴重です。市内の一石百庚申塔は、先ほどの火皇子神社のものとあわせて2基しかありません。

小春日和の中、自然豊かな谷津田ひろがる風景を眺めながらの散策は最高に気持ちよかったです。



女人講が盛んな地域の象徴



右端が一石百庚申



はるか昔から続く谷津田の風景